

## 所長就任の機会に

兼重寛九郎

昭和24年6月東京大學に生産技術研究所が設置されたとき、初代所長となられた瀬藤教授——私にとっては先生とよぶべき人であり、またそれが一番ビツタリするのであるが——は、東大の定年申合にしたがつて去る3月31日に東大を去られた。その結果、私が2代目所長の職を汚すことになったのであるが、文字通り汚すのではないかということをおそれている。

いうまでもなく、瀬藤前所長は昭和16年東大に第二工學部を設置することが決定されたときから、その設立準備の直接責任者として、學部の建設、教授陣の整備に寢食を忘れ、當時すでに相當窮屈になつていた資材や勞力の調達にあらゆる悪條件を克服して、豫定通り翌17年4月には420人の新入學生を迎える事を可能にされた人である。その後の3年間初代第二工學部長として、また終戦後第二工學部の廢止、生産技術研究所の設置が決定されると、二度目の第二工學部長、初代の生産技術研究所長として、再びこの困難な仕事に當つてこれを完成し、第二工學部の閉鎖と日と同じくして東大を去られた。第二工學部も生産技術研究所もともに、同先生に負うところがいかに大きかつたかは私が改めていうまでもなくすでに多くの人が認めている。

上に述べたように東大第二工學部は、去る3月31日をもつて満9年の歴史に終止符を打つた。そしてその後を生れた生産技術研究所は、教授35人、助教授33人を含む職員總數450人に近い、大學附置研究所としては、わが國最大の規模を持つものとして、一應の完成を見るに至つたのである。

生産技術研究所の使命と、その含む専門分野については、本誌創刊號(昭和24年10月)に瀬藤前所長が書かれたから、ここに再び記すことはしないが、重ねて述べておきたいと思うことが少しある。

去る2月下旬、瀬藤先生はその訣別記念特別講義(本誌昭和26年4月號掲載)において、電氣工學を中心としたわが國の工學と工業について語り、西歐および米國におけるそれらと異なり、わが國では明治維新の後、工學は工學として、工業は工業として、それぞれ獨立のルートによつて直接外國から輸入されたものが多く、その結果として、おのおのの分野における發達は非常に目ざましいものがあつたけれども、兩者間の結びつきはまたおどろくほど低調であつたことを明かにして、これがわが國の工學および工業における大きな弱點をなしていると結論された。

これは單に電氣工學における現象というものではなく、他の分野においても同様、或はそれ以上ではないかと私も思う。生産技術研究所は、このような弱點の強化を目指しているのであるから、これに對する所屬研究者の努力が要望されることはいうまでもないが、その使命達成には、工業界の協力と援助とが極めて大切であることを廣く知つていただきたいのである。

昨年4月から本年3月に至る1年間に外部から、研究や試験試作を依頼されたいわゆる委託研究は合計27件、それに対する委託研究費豫算は100萬圓であつたが、このほかに材料や試験片等現品で支給されたものを金額に見積れば、それだけでこれを上回るものと思われる。この実績は決して誇り得るものではないが、發足直後であることを考えれば、將來はかなり有望であると思つている。今年度は少くもこの3倍には達するであろうと豫想しているが、この制度の利用者が一層増加して、研究所の使命達成に効果をあげることを希望してやまない。

もとより生研が、委託研究のみを行う機關でないことはいうまでもなく、研究所自體の乏しい豫算の中から約400萬圓を支出して、これを11件の中間試験に集中的に配分して、急速に成果を擧げること努力している。すでに脳波記録装置は相當の臺數を製作する段階に進み、酸素製鉄法は2年にわたる所内の試験を終つて、近く八幡製鐵株式會社との共同研究として、八幡において工業化試験が行われようとする域に達した。その他時計歩度計、超音波厚味計、小型超高速カメラ、逆張力式線引機等が近く相次いで完成を見る豫定であり、また東大理工學研究所において完成した微分解析機を試作第1號機とすれば、その第2號ともいふべき新機が今秋頃までには、生研に据付けられる見込で、これを設置する専用室の改装はその主要部分をすでに完了した。このほか研究員各自が、それぞれの専門分野における基礎的研究を行いつつあつて、やがて中間試験に進もうとしているものもいくつかあり、近い將來において生研が相當の業績をあげるであろうことは、私の信じて疑わなところである。

しかし一方生産技術研究所が期待される通りの成果を擧げるために、解決しなければならない問題は非常に多い。研究費の増額、設備の改善充實、人員の増加、職員の待遇改善生活向上等この研究所だけの問題として解決されないことが多く、ことに私の微力をもつては打開困難な問題ばかりであるが、全力を傾けて一歩づつでも前進したいと考えている。



兼重新所長